

■ (92) 「はやぶさ」再び宇宙へ

2014. 12. 26

小惑星探査機「はやぶさ2」は、打ち上げが2度延期され、12月3日午後1時22分、鹿児島県の種子島宇宙センターから打ち上げられました。小惑星「1999JU3」を目指し、往復52億キロの〔①〕をスタートさせました。

「1999JU3」に到着するまで3年半かけ、1年半ほど探査したのち地球に帰還するのは〔②〕年末です。

【問1】①、②に入る言葉などを書いてください。

①朝日新聞の12月4日付朝刊の見出しでは「航海」を使っていますが、他紙では「旅」「冒険」を目にしました。

②2020または20。東京オリンピック開催の年です。

【問2】「はやぶさ2」の目的はなんでしょうか。朝日新聞の11月28日付朝刊2面「いからわかる！」や12月4日付朝刊7面などを参考にして、まとめてください。

解答例 ―― 銅板を衝突させる装置でクレーターを人工的に作り地下物質採取、など。

【問3】初代「はやぶさ」は内之浦、今回は種子島から発射されました。なぜ日本の南部から打ち上げられるのでしょうか。

まず、墜落や爆発をした時の安全を考えて、海の近くや島が選ばれますが、南部、赤道に近い方が自転速度が速く、地球の自転を利用したロケット打ち上げには有利だからです。

「はやぶさ2」の未知への旅は始まったばかり。「1999JU3」へ到着するのは、その軌道周辺を2周と少し回った2018年夏で、それまでも折に触れ紙面で取り上げられるはずなので注目したいと思います。

＝朝日新聞はいずれも東京本社発行の最終版に基づく  
(鈴木伸男・全国新聞教育研究協議会顧問)